

○一般社団法人 日本森林学会 2018 年度第 4 回（通算第 467 回）理事会・連携学会長合同会議 議事録

日時：2018（平成 30）年 12 月 10 日（月）13:00～17:00

場所：日林協会館 3 階 大会議室

開催者：黒田慶子

出席者：会長）黒田慶子，副会長）田中浩，小島克己，理事）玉井幸治，柿澤宏昭，紙谷智彦，正木 隆，松本麻子，福田健二，大住克博，井鷲裕司，高山範理，佐藤宣子，大河内 勇，船田 良，中村太士，梶本卓也，横井秀一，監事）堀 靖人，連携学会長）渋谷正人，森茂太，土屋俊幸，松村直人，大住克博，岡勝，主事）山川博美，岩永青史，岡本 隆，澤野真治，荒木眞岳，木村 恵，山崎理正，竹内啓恵，當山啓介，宮本和樹，東原貴志，編集部）町田庸子 [学会誌刊行センター] 事務局) 稲村崇子，オブザーバー) 木暮甲吉 [林野庁]，網田克明 [全林試協]

議長：黒田慶子

審議事項：

本理事会で議論・決定された事項は以下の通りである。

1. 第 130 回大会（新潟大学）における本部主催企画

第 130 回大会において，学会企画として「森林環境税（仮称）及び森林経営管理法を契機とした森づくり～森林環境税（仮称）及び森林経営管理法とは～」，「日林誌に論文を出す」，「ダイバーシティ推進ランチョンワークショップ 2019」の 3 テーマを開催することが大住理事から提案され，提案の通り承認された。

2. 第 131 回大会（名古屋大学）における行政からの参加促進

玉井理事から，前回の理事会からの継続審議となっていた行政からの学術大会への参加を促す方策として，中部森林学会に参加している各県および中部森林管理局に大会聴講招待券を 5 枚ずつ配布すること，また配布においては非会員の行政担当者に限ること，が提案され，提案の通り承認された。

3. 公開シンポジウムの開催

玉井理事から，2019 年度定時総会と併せて公開シンポジウム「研究と実践現場をつなぐ—森林教育研究の挑戦（仮）」を開催することが提案され，提案の通り承認された。

4. ポスドク（PD）会員の会費

学生会員から正会員への切り替え時に退会する会員が多く，森林学会員減少のきっかけとなっている可能性がある。そこで，正会員と学生会員との位置づけとして，ポスドク会員の新設が玉井理事から提案されたが，ポスドクの定義や会費の妥当性などについて意見がだされ，継続審議となった。

5. 要領 4-2「著作権における著者に許容される権利」の改正

前回の理事会で「日本森林学会著作権内規」が新たに制定され，要領 4-2 において著作者や第三

者による著作物の使用に係る事項を各誌で改定する方針が決まったことを受け、該当部分の改正が正木理事より提案され、提案の通り承認された。また、学術講演要旨集については、プログラム編成担当で改正案を検討することとなった。

6. 森林科学「執筆要領」の改正

松本理事より、ウェブページの引用方法を新たに定めることが提案され、一部修正のうえ承認された。

7. 森林科学における広告代理店契約と広告料の見直し

松本理事より、広告料については現行水準を維持すること、広告代理店との契約については広告掲載の年間契約は学会との直接契約のみで取り扱うこと、過去 10 年以内に取引のあった広告主と賛助会員について代理店の営業対象から除外することなどが提案され、提案の通り承認された。

8. 森林科学における「ブックス」の会員限定公開の解除

松本理事より、J-Stage において「ブックス」が発行後 1 年間の会員限定公開の対象となっているため、会員から書籍の宣伝効果が低いとの指摘があったことを受け、「ブックス」を発行当初から一般向けに公開することが提案され、提案の通り承認された。

9. 平成 31 年度学会各章受賞者の決定

表彰委員会、JFR 編集委員会、日林誌編集委員会での選考結果と受賞候補者が井鷲理事、伊藤理事の代理として玉井理事、正木理事からそれぞれ報告された。審議の結果、日本森林学会賞を崎尾均会員（新潟大学）に、日本森林学会奨励賞を曾我昌史会員（東京大学）、小長谷啓介会員（森林総合研究所）、津田吉晃会員（筑波大学）に、日本森林学会学生奨励賞を河村和洋会員（北海道大学）、伊津野彩子会員（投稿時：京都大学、応募時：森林総合研究所）に、日本森林学会功績賞を藤森隆郎会員に、それぞれ授与することを決定した。また、JFR 論文賞を Tsuyoshi Sato, Haruka Yamazaki and Toshiya Yoshida による論文（22 巻 6 号 336-342 頁）に、日本森林学会論文賞を平野悠一郎による論文（100 巻 2 号 55-64 頁）、久保山裕史、古俣寛隆および柳田高志による論文（99 巻 6 号 226-232 頁）にそれぞれ授与することを決定した。

10. 学生ポスター賞選考委員会の設定

第 130 回大会における学生ポスター賞の選考にあたって選考委員会を組織することが井鷲理事から提案され、提案の通り承認された。

11. ダイバーシティ推進委員会の設置

高山理事から、ダイバーシティ推進活動を強化するため、ダイバーシティ推進委員会の設置が提案され、平成 30 年 12 月 10 日から平成 32 年 5 月（定時総会終了時）までの臨時委員会として設置することが承認された。なお、委員長は高山範理氏（ダイバーシティ推進担当理事・森林総合研究所）、委員は竹内啓恵（ダイバーシティ推進担当主事・東京大学）、玉井幸治（総務担当理事・森林総合研究所）、岩永青史（会計担当主事・森林総合研究所）、片桐奈々（岐阜県森林研究所）、木村恵（表彰担当主事・森林総合研究所林木育種センター）、武正憲（筑波大学）、塚原雅美（大会運営委員会・新潟県森林研究所）、山川博美（総務担当主事・森林総合研究所）である。

12. 2018 年度林業遺産事業の林野庁からの後援

林野庁森林利用課より、林業遺産事業への後援の引き受けについて前向きな返答を受けていることが報告されたのち、林業遺産事業について林野庁に後援を申請することが佐藤理事より提案され、提案の通り承認された。

13. 日中、日韓森林学会の MOU に基づく学術大会での相互招待

田中副会長から、日中および日韓森林学会の MOU に基づき、協力関係を進める第一歩として、学術大会への相互招待を第 131 回大会（名古屋大学）からの開始を目指して、中韓森林学会に呼びかけることが提案され、提案の通り承認された。

14. 理事会議事録の承認

2018 年度第 3 回（通算第 466 回）理事会の議事録が承認された。

15. 次回理事会の開催

次回理事会を 4 月に開催することが承認された。

報告事項：

1. 第 130 回大会（新潟大学）の準備状況

紙谷理事（第 130 回大会運営委員長）から、公開シンポジウム、ポスター発表会場、高校生ポスター、関連学会の申し込み、企業展示、託児所利用申し込み、懇親会などの準備状況が報告された。

梶本理事（プログラム編成委員長）から、発表申し込み件数は 831 件で、前回大会より発表件数が減っていること、大会のタイムテーブルの案などについて報告があった。

2. 連携学会からの報告

各連携学会の会長または会長代理から、役員体制、総会・大会の開催、刊行事業、表彰制度、会員数の動向、財政状況などの報告があった。各連携学会に比較的共通する課題として会員数の減少や、大会開催や学会の運営が難しくなりつつあることなどが指摘された。また、地域学会としての連携学会の在り方について、学会の役割や行政と林業技術者の位置づけなどが議論され、今後これらの問題を整理し、委員会化などを念頭に具体的に検討を行うこととなった。関連して玉井理事から、学術大会の開催順番や学術大会運営規則に定められた手順、科研費（研究成果公開促進費）の発案順番についての確認があった。

3. 総務担当からの報告

玉井理事から、会員名簿の配布を学会ウェブサイトから PDF でダウンロードするようになること、12 月 4 日の日本農学会運営委員会の内容、北方森林学会の発案により平成 31 年度 JSPS 科研費（研究成果公开发表 B）に日本森林学会として応募したことが報告された。

4. JFR 編集担当からの報告

伊藤理事の代理として玉井理事から、JFR の 23 巻 5 号および 6 号を刊行し、年間のページ数は 397 ページ（58 編）であったことが報告された。

5. 日本森林学会誌編集担当からの報告

正木理事から、日林誌 101 巻の表紙写真を募集中であること、編集および投稿状況、日林誌で使用している印刷紙（キンマリ）が減産のため用紙の変更を検討していることが報告された。

6. 森林科学編集担当からの報告

松本理事から、森林科学84号「特集：世界自然遺産候補、奄美・沖縄地方の森林生態系管理」を発行したこと、また85号「特集：広葉樹二次林の炭素循環研究の最前線（仮）」の編集を進めていること、編集委員の山浦悠一委員が退任し、後任として岡輝樹氏（森林総合研究所）に編集委員を委嘱すること、J-Stageへの移行状況が報告された。

7. 広報担当からの報告

福田理事から、メールマガジンの発行状況、アドレスリストの更新、ウェブサイトの更新を行ったことが報告された。

8. 表彰担当からの報告

井鷲理事から、農学賞の募集には応募がなかったこと、学会各賞の推薦者を、自薦他薦を問わず1名とすることを検討中であることが報告された。

9. ダイバーシティ推進担当からの報告

高山理事から、男女共同参画学協会連絡会の学術集会における演題発表者などの属性調査に回答したことが報告された。

10. 林業遺産担当からの報告

佐藤理事から、2018年度の林業遺産の推薦が7件あったこと、選定のスケジュールが報告された。

11. 学協会連携担当からの報告

大河内理事から、当学会がサポート連絡会に参会しているウッドデザイン賞の表彰式に出席したことが報告された。

12. 国内研究機関連携担当からの報告

中村理事および網田全林試協会長から、「国内研究機関へのアンケート結果」を全国林業試験研究機関協議会役員会で報告および意見集約したことが報告された。主な意見として、研究員の育成には中長期的な展望が必要であり学会として継続して研究員の育成に協力して欲しい、地域ごとの取り組みが重要である、また学会企画で行われる「論文作成セミナー」は研究力を高めるために有効である、などが示された。また、地方での論文作成セミナーの開催について議論され、技術セミナーや意見交換会の開催、連携学会大会との併催などの意見がだされ、今後検討を進めることとなった。

13. 国際交流担当からの報告

田中副会長から、第130回大会のお知らせの追加決定事項を英訳し公開したことが報告された。

14. 木材学会連携担当からの報告

船田理事から、第69回日本木材学会大会（函館大会）の開催案内および日本森林学会と日本木材学会で学術大会にそれぞれ5名ずつ招待していることが報告された。

議事録作成者：玉井幸治，山川博美